

## 子どもと家族と学校と ⑰

### 『大学生の中退率 10%と不登校』

CON(こん)カウンセリングオフィス中島

中島弘美

#### 新入社員の離職率 30%女子 46%

新入社員の離職率の高さが注目されている。長期にわたる就職活動をくぐり抜け、念願かなって正社員として入社したにもかかわらず3年のあいだに大学卒業者の3割が職場を退職する。四年制大学卒業の女子になるとその数字が1.5倍の46%になり、同じ職場で働き続ける難しさを物語る。

各学校ではキャリア教育が熱心に行われているが、学校を卒業し社会人になって初めて実感することも多いのだろう。この傾向はこれからも続きそうだ。

#### 大学の中退率 10%

就職活動を続けているときに内定がもらえるるとひと安心するが、就職活動をするまでもなく、さまざまな事情で学生が大学を離れている。

いまや中退率およそ10%。

大学進学率が50%を超えた今、高い授業料を払って大学に進む学生は年間およそ60万人。そのうち卒業者は55万人。

単位が修得できずに卒業延期や留年、編入、学部変更など、入学後ストレイトに卒業しない学生も多い。

#### 不登校から中退へ

なかでもいま、調査が急がれているのが、中途退学だ。

大学中退は、本人の明確な意思や目的があつてのことだと一般的に考えられがちだが、実際は大学に行きたくても行けない状態つまり、不登校から大学中退をしている。

定期試験を受けず、単位が取得できなくて、再履修科目が増えていき、四年間で卒業できそうもないというのが見えた時点で退学を選ぶという学生が目につく。そのため、大学一年生から二年生にかけて多くの単位を落としてしまうと、徐々に大学から足が遠のいていくようだ。

体調不良など病気のため加療が必要なから休学願を出すのも選択のひとつだし、経済的な事情がある場合には、大学の制度などを利用することも視野に入れればよいが、多くの学生が卒業できそうにな

いと、明確な理由ではなく、大学を辞めていく。そんなにあっさり決めて良いのだろうか、それほど大学に魅力を感じていないのだろうか。

入学者の1割が去っていくという背景にはどのような状況があるのか、いまどきの大学生活の様子を記してみよう。

### アルバイトで忙しい

企業の人々や親世代はあまり感じていないかもしれないが、大学生は、日々何かと忙しく過ごしている。

まず、7割の学生がアルバイトをしている。週に11～15時間働いている学生が最も多く、勉強する時間は週に5時間以下で、アルバイト時間のほうが勉強の時間よりも多いと、大学生の学習状態に関する調査は報告する。

時給の高い夜間勤務をしたあと講義に出席し、週末はフルでアルバイトに入っている学生も多く、生活費や学費をねん出しているのが現状だ。

### 大学はのんびりしているのか？

かつて、大学といえば、のんびりしている象徴だった。

大学の授業で出欠をとることは少ないため自主休講ができたし、教員の都合等で正式に休講になることも頻繁にあった。出席しなくても、試験さえクリアすれば、単位を取得できることも実際にあった。なかでも文系の大学生は自分なりの時間を多く持ち、友人と語り、行動を共にする、それが大学生の特権とまで感じてい

た。ただし、大学を卒業すると、こんな生活は出来ないと覚悟をしていたようには思う。

### 授業時間数が多く休めない

いまは大きく異なる。

資格取得に関する科目を選択すると、授業時間数がぐっと多くなる。講義が、休講になれば必ず補講があり、祝日や土曜日、夏休みも集中講義の予定が組まれている。

私が非常勤講師を担当している大学は、ハッピーマンデーの祝日もときには授業があり、最初はおどろいたが、規定の授業時間数確保のための多くの大学も同じシステムのようなのだ。

また、自宅での学習も必要で、課題提出が多い科目、予習や復習が毎回必要な科目もあり、大学生は勉強しなくていいというわけにはいかなかった。

さらに、多くの大学は出欠をとって、遅刻早退などもデータ管理されている。とくに、国家資格取得にかかわる科目の場合は、出席時間数が満たされていないと、単位取得が不可能になる。

せっかく在学中に資格が取れるのだったらとっておきたい学生は、将来どのような仕事に就きたいのかを考えるまえに、資格取得の蓄えに、せっせと授業に出席しなければならない。

### 往復5時間通学

最近では、下宿をする学生も少なく、費用の面から考えて自宅通学を希望する学

生が多い。往復で5時間以上の通学時間も珍しくない。朝一番の講義に間にあうようにするには、6時台の電車に乗っている。

このように、授業が多く時間を占めているだけでなく、長時間通学でくたびれつつも、空き時間に課題をこなし、アルバイトに精をだす生活環境が浮かび上がってくる。

### オープンキャンパスは楽しかったけど

大学のホームページやパンフレットをみて、オープンキャンパスに参加してみたら大学の教授と直接話ができ、先輩大学生が親切に案内をしてくれて、とても印象が良かった。

就職率の良さや、資格取得率の高さが魅力で大学に入学したものの、おもっていたほど毎日がワクワクしているわけではなく忙しい。

繰り返し考えるのは、将来への不安と自分の劣等感、日々のアルバイトのこと、友人関係や彼氏彼女のこと。

いまの大学生の声を平均してみるとこんな感じになるだろうか。

### やりたいことがわからない

忙しい日々の学生たちの様子を見ていて、気がかりなことは、卒業後の希望についてどうとらえているのか、把握しづらいことだ。

20歳前後の大学生は、つねに将来への不安を抱え、考え、悩むことが特徴だが、一方でその苦悩の時期は重要な意味をも

っている。が、あまり困っている様子が見られず、将来について、考えるのを先延ばししているのかもしれない。

「大学がおもしろくない、やりたいことがみつからない、わからない、どんな仕事があるのか知らないので教えてほしい」

こんな学生さんからのセリフをよく耳にする。どうしたいの、どんな人やものを対象に仕事をしたいのと聞いても、あいまいな返事。

「しっかりみつめて、悩んでよ」と伝え、繰り返し同じ話をする学生さんを応援している。

しんどそうな仕事はいや、むずかしそうな仕事も無理、責任が重いのも困る。通勤時間は短くて給料が良くて、残業がない職場を考えているようだ。

このような考えは、学生たちだけでなく大人もよく似たことを考えている。

きっと、社会人になって予想もしないことにでくわす恐怖のようなものもあるのだろう。

「そんな考えは社会で通用しないよ」などと、大人は学生たちにせまるため委縮しているようだ。

仕事をする中で、いろいろ体験してすばらしいことに出会えるということが見えていない。

社会は厳しいかもしれないけれど、社会人になると今よりやれることが増えてもっと楽しいよ！と伝えることが足りないのかもしれない。

### 大学の対策

学生の中退をどう防ぐかは、今、大学教育の大きな課題になっている。

資格取得率の輝かしい数字がおどっているホームページでは、中退率は公表させておらず、学生獲得でせいっぱいだ。入学後の学生へのサポートが手厚いとは感じられない。

欠席者に対するサポートのルールをつくり教員が直接個別指導をしているところも増えているが、それだけでは効果が上がらないと考えられている。

キャンパスワーカーの配置や学生相談室の利用促進をし、不登校の学生について教員同士の共通理解をする。

さらに保護者家族とともに本人に多くの関係者がかかわって支援する体制が必要だ。

そこまでするのかと疑問をもたれるかもしれないが、保護者面談も随時行われるようになった。

なかには、個人的な問題として入学以前に不登校を経験している場合もあるだろうし、発達障害等、精神疾患なども影響していることも否定できない。

サークルや部活でのトラブルもときには退学選択の理由になるだろう。

大学側は学生から、中退する理由が進路変更であると告げられてしまうと、継続してサポートしづらい立場になってしまう。進路変更が最良の選択であればよいが、明確な意思によるものでない場合もあると考えられる。

本人の退学希望は止められないが、進路変更の話題が出る前に、大学での授業内容がいかに卒業後必要となるのか、学士の資格を取得することがどれほど有利

であるかとともに、将来の夢を描けるように伝える必要があるだろう。

文部科学省が大学の中退の理由を詳しく調査することになった。

さまざまな制度の整備、支援によって、高校一年生の中退率が大きく減少したように、大学の中退率も改善されることを期待している。

子どもと家族と学校と これまでのタイトル

- ①アルバイト20時間分のカウンセリング料金
- ②高校一年生 ハヤト 不登校
- ③不登校は学校が悪い それとも家族が悪い？
- ④息苦しくて教室に入れない
- ⑤姉13歳と弟3歳のきょうだい
- ⑥カウンセラーが教員の立場で大学生と接すると
- ⑦新一年生は要注意
- ⑧学生さん、初めてこころの病を学ぶ！
- ⑨留年する生徒ゼロのクラス担任
- ⑩私がこんな性格になったのは、母親の育て方が悪かったからだ！
- ⑪どこからが問題？なのか、早期発見、早期対応
- ⑫安心してカウンセリングを受けるには、
- ⑬もしもあなたがカウンセリングに行ったなら
- ⑭体調不良と不登校
- ⑮開業カウンセラーの学校訪問
- ⑯きつとよいことがあるよ式子どもへのことばかけ